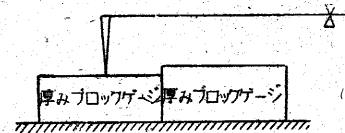


第 11 圖

表中の 5μ はこのようにして得られたものである。

8. 性能の限界

この方式の性能の限界は電子管増幅回路を用いるために、低周波増幅回路の生ずる雑音、電源電圧の変動から制限されるものと考えられ、約 500000 倍がその限度と



第 12 圖 較正は厚みのわかっているいくつかのブロックゲージをならべてこの上を探野すればよい

考えられる。従つて 100000 倍程度の拡大を必要とする特殊な研究のためには従來の光學的方法のものを用いた方がよいが、10,000 倍以下の現場向き検査機としては多くの特色をもつ便利な方法と考えられる。なお上に述べたのはこの方式の可能性をしらべるための試験的な装置であつて、完成した製品となればもちろんもつと小型にまとまる。

9. 結 語

音響インピーダンス法による Pick-up によつて粗度を電氣的に取り出しこれを電磁ペンレコーダに導いて、普通の紙にインク直記することにより、従來の表面仕上検査機の缺點をのぞいて現場向きの検査機ができる可能性を明かにした。なおこの方法は目下特許出願中である。末筆ながら、本研究を行うに當つてこの問題を提出され、かつ種々御協力いただいた明石協議員、河村教授に謝意を表する次第である。(26, 11, 26)

文 献

- (1) C. W. M dhurst, An Instrument for antomatically recording waviness of surface. Journ. Sci. Instr. Vol. 28, No. 7, July 1951, p. 211
- (2) 糸川英夫 「生研式インクライターとその應用」生産研究 2 卷 6 號, 1951, 6
糸川英夫 「腦波の記録について」生産研究 2 卷, 3 號, 1950/3
- (3) 糸川英夫 「音響イムピーダンスに依る微小變位測定法」應用物理 18 卷 6~7 號, 1949, 6 月, 213 頁
- (4) 糸川英夫 「輪型細隙のイムピーダンスについて」應用力學 2 卷 10 號, 1949, 7 月, 23 頁

“生産研究” 第 4 卷 第 1 號 (1 月號)

正 誤 表

頁	段	行	種 別	正	誤
3	左	3	本 文	octahedral	sctahedral
3	〃	下 6	脚 註	$\sigma_1, \sigma_2, \sigma_3; \epsilon_1, \epsilon_2, \epsilon_3$	$\sigma_1, \sigma, \sigma; \epsilon, \epsilon_2, \epsilon_3$
4	〃	下 6	〃	$\epsilon_p = \log_e (1 + \epsilon_p)$	$\epsilon_x = \log_e (1 + E_p)$
4	〃	下 5	〃	$\epsilon_t = \log_e (1 + \epsilon_t)$	$\epsilon_t = \log_e (1 + E_t)$
7	右		第16圖	(×15)	(+15)
8	左		第22圖	(COONH ₄) ₂	COONH ₄
10	右	8	本 文	角速度	解速度
19	左	下 14	〃	t は齒の高さ,	t は齒の厚さ,
20	右	21	〃	(7) を満足するからといつて	を満足するからといつて,
20	〃	22~23	〃	齒先すきまには	齒先す (7) きまには
24	左	19	〃	第 4 種	第種
25	〃	1	〃	使用	作使
33	右	2	〃	同一開口率でも	同一開口部でも
35	〃	4	〃	無開口壁	無筋壁